

西宮版総合戦略に係る有識者会議

日 時	令和3年11月19日（金）午前10時～12時
場 所	西宮市役所本庁4階 A441 会議室
出席委員	勝沼委員、角野委員、古賀委員、花城委員、星野委員、宮内委員
事務局	太田政策局長、三村政策総括室長、堀越政策推進課長、部谷産業部長、 但馬都市ブランド発信課長ほか
会議の公開	公開
審議等議題	西宮版総合戦略の取組状況について 地方創生推進交付金事業について

（主な意見）

■西宮版総合戦略の取組状況について

- ・西宮市は上場企業は少ないが、上場を志向している会社は結構多い。上場を志向している会社は事業を拡大していくため雇用も発生するので、そういったところにもっと支援をすれば、人口増や雇用増につながっていくと思う。
- ・近年、学生に起業を勧める、積極的に起業を応援していくという動きがある。数は多くないが、起業の支援は今後の大きなテーマになると思う。
- ・若い人には西宮市民だから西宮市で働くという発想は無いので、阪神地域としてどう活性化していくのか、という発想が必要。
- ・東西方向の動きはしっかりしているので、市としての課題は南北方向で就業者の動きをどうするか。既成の市街地、鳴尾浜の埋め立て地、北部の流通センターのあたりの動きをどう活性化していくかが重要。
- ・コロナの影響でビジネスの形態、働き方が変わっている。ITを使ったものでないとビジネスが成功しないなど。今までの目標は目標だが、違った角度でも見る必要があるのではないかと。新しいビジネスがどんどん出来ている。見る目を変えていかないといけないのではないかと。
- ・高齢者の中にはスマホが使えないので不便を感じている人も多いと聞く。子どもへの教育では、GIGAスクール構想によりプログラミングなどタブレット端末を使用したりしているが、若い人達と高齢者の間にギャップができたと感じる。そういったことに対してもいろいろ考えていかないといけない。
- ・リモートワークの実施にあたり無線LANを使用しているが、情報漏洩等のセキュリティの面から兵庫県のテレワークを利用している。西宮市もテレワークを促進するならば、そういった環境整備が必要ではないかと。
- ・人口をむやみに増やすのではなく、質の高いライフスタイルを保つための人口規模というのを考えたうえで、SDGs、持続可能な地域社会づくりという観点で政策を体系的に位置付け直す作業があっても良いと思う。
- ・これからはどの市も人口減少が進む中で、近隣市が増加しているからこっちが減少しているという考え方では相互発展は見込めないで、今まで以上に近隣市との連携をより深めていくべき。

- ・市内の就業・雇用を増やしていくには、直接支援、間接支援それぞれの部分において雇用関係の改善についての対策が必要だと思う。生活困窮者への自立支援事業、特に中間的就労をどう活用していくかで、市内総生産などの数値も変わってくると思う。
- ・西宮市の失業者に対する施策は相談業務が主になっているが、伊丹、宝塚などでは直接雇用をフォローするといった動きもある。相談業務のほか、そういったもっと積極的な策を打てないか検討してほしい。
- ・市民意識調査での「心配に感じていることはあるか」という問いに対し、「医療や福祉サービスが思うように受けられない」「子どもの学習機会の確保。学力低下」「相談できる人や助けてくれる人が身近にいない」と回答した人がそれなりにいるということに目を向けないといけない。
- ・取組状況の報告書に、教育環境の満足度は高い、実績も上がっている、とあるが、一方で取り残される人が一定いることを忘れてはいけない。学校でしか教育を受けられない子供たち、あるいは学校にも行けない子供たちへの目配りをどれだけしているのかというところが見えてこない。公教育の役割というのを改めて認識しないといけないと思う。
- ・コロナ禍で多くの人が、相談できる人や助けてくれる人が身近にいない、何か起きた時にどこに相談したら良いのかわからない、といった不安を感じたと思う。社会的な孤立を防ぐ居場所づくりが浸透していないのではないかという問題意識をもった。
- ・総合戦略全体を見ると、最近の言葉でいうと多様性だが、幅広い観点での人権問題、ジェンダー平等の観点でもっと言及すべきではないか。
- ・市民意識調査の結果をみると、市民活動に対する関心の低さが感じられる。何か災害等が起こった時にそれに耐える地域かどうかというのは、インフラなどではなく、自立した市民がどれだけいるかということではないかと思う。市民にももっと、一人ひとりがまちづくりに取り組みませんか、というメッセージが必要ではないか。基本目標7の中に「市民活動への支援」というのをもっと表出しすべき。
- ・総合戦略の策定や、実現に向けてどれだけ市民が関わってきたのかがあまり見えない。市民の関心を高めるような、自立を促すような仕組みづくりを具体的に進めてほしい。
- ・地方創生を推進するにあたり、コロナで影響を受けたものがさまざまあると思うが、どんな影響をどの部分に受けたのかをしっかりとふまえたうえで、今後の目標、具体的な進め方、あるいは新たに見えてきた課題について整理する必要があると思う。

■地方創生推進交付金事業について

- ・鳴尾地域はスポーツ施設が揃っているが、交通の便が良くない。尼崎にはスポーツの森（複合スポーツ施設）があるが、西宮はそれぞれのスポーツ施設が離れているので、ぐるっと甲子園浜、鳴尾浜とスポーツ街道のようにすれば、いろいろなスポーツができるので、交通の便を考えたほうが良い。
- ・甲子園球場は全国的に有名なので、全国からの集客も考えていけば良いかと思う。

市の事業としてふさわしいかはわからないが、せっかくのブランドなのでもっと活用できればと。甲子園が西宮市にあることを知らない人が多い。

- ・ 尼崎のスポーツの森、西宮の鳴尾界限・ヨットハーバー、芦屋の海洋体育館など、阪神南地域は東西に質の高い施設があるので、阪神南のゾーンとして、ウォーターフロント全体としてももう少し打ち出したほうが良い。
- ・ ベイエリアで連携してそれぞれ交流しながらこういったアカデミーなどをやっていたら良いと思う。
- ・ 年齢層にあったスポーツレクリエーションプログラムの開発・普及や高齢者のフレイル対策が必要だという声も多いと思うので、高齢者にもスポーツをしてもらえるような仕組みがあれば良いと思う。
- ・ アカデミーの開催要領を見ると高レベルなスポーツビジネスのように感じるので、もっと高齢の方でも健康増進のためにできるスポーツビジネスがあっても良いのでは。
- ・ プラットフォームを作る際、西宮市内の事業者が中心にはなるが、ベイエリアには尼崎、芦屋にもいろいろあるので、西宮が積極的に尼崎や芦屋に連携を働きかけ、ベイエリアとして打ち出していくべきだと思う。特に情報発信のところが弱いのでしっかりしていくべき。
- ・ アカデミーの開催が甲子園界限のスポーツ振興につながれば良いと思うが、西宮市にある甲子園球場というのをもっとアピールできないかと。そういうところも含めて事業者と行政の取組の中での連携というのをもっと工夫すべき。
- ・ 西宮は海も山もあり、非常に魅力的なところで、外から行ってみたいまちだと思うので、交流人口を増やすような取組を地域の資源を活かして取り組んでほしい。
- ・ キzzaニアなどは知られているが、ベイエリアに何があるか知らない人が多い。交通の便は横方向は良いが縦方向が上手くいっていない部分があるので考えてほしい。
- ・ 西宮はやはりお酒が有名なので、観光資源として活用すればもっと賑わいを出せると思う。
- ・ スポーツビジネスの取組が地元はどう良い影響を及ぼすのか、それによって今の鳴尾地域の課題をどう解決していくのかを示してほしい。
- ・ スポーツを通じたまちづくりに携わりたいと思っている市民は多くいると思うので、本気でスポーツビジネスで起業を目指すようなスポーツアカデミーのような取組とともに、市民レベルの取組があっても良いと思う。
- ・ 鳴尾地域にあるいろんなスポーツ施設等を今以上に活用していくために、プラットフォームや、ステークホルダー間のネットワークをしっかり作っていくこと、情報発信をしっかりしていくことが重要である。
- ・ 北部地域の人はベイエリアのことをあまり知らないなので、情報発信により、市民レベルでの魅力の共有を図ったうえで、効果的に進めてほしい。
- ・ 鳴尾地域の人口減少、高齢化は以前から指摘されている非常に大きな課題だが、その課題解決にこういったスポーツ振興、プラットフォーム作りがどう関わるのかという説明が必要だと思う。
- ・ 流通センターや製造業が集まっているので大型車が通るのは当たり前だが、そうい

った中で利用者が快適に利用できる交通ネットワークをしっかりと作っていくのが大きな課題である。